

新型コロナウイルス感染症対応及び 今後の課題について

令和3年11月11日（木）

沖縄県立八重山病院

八重山地域の人口及び地理

人口 54,251人（令和3年9月1日現在 推計人口）

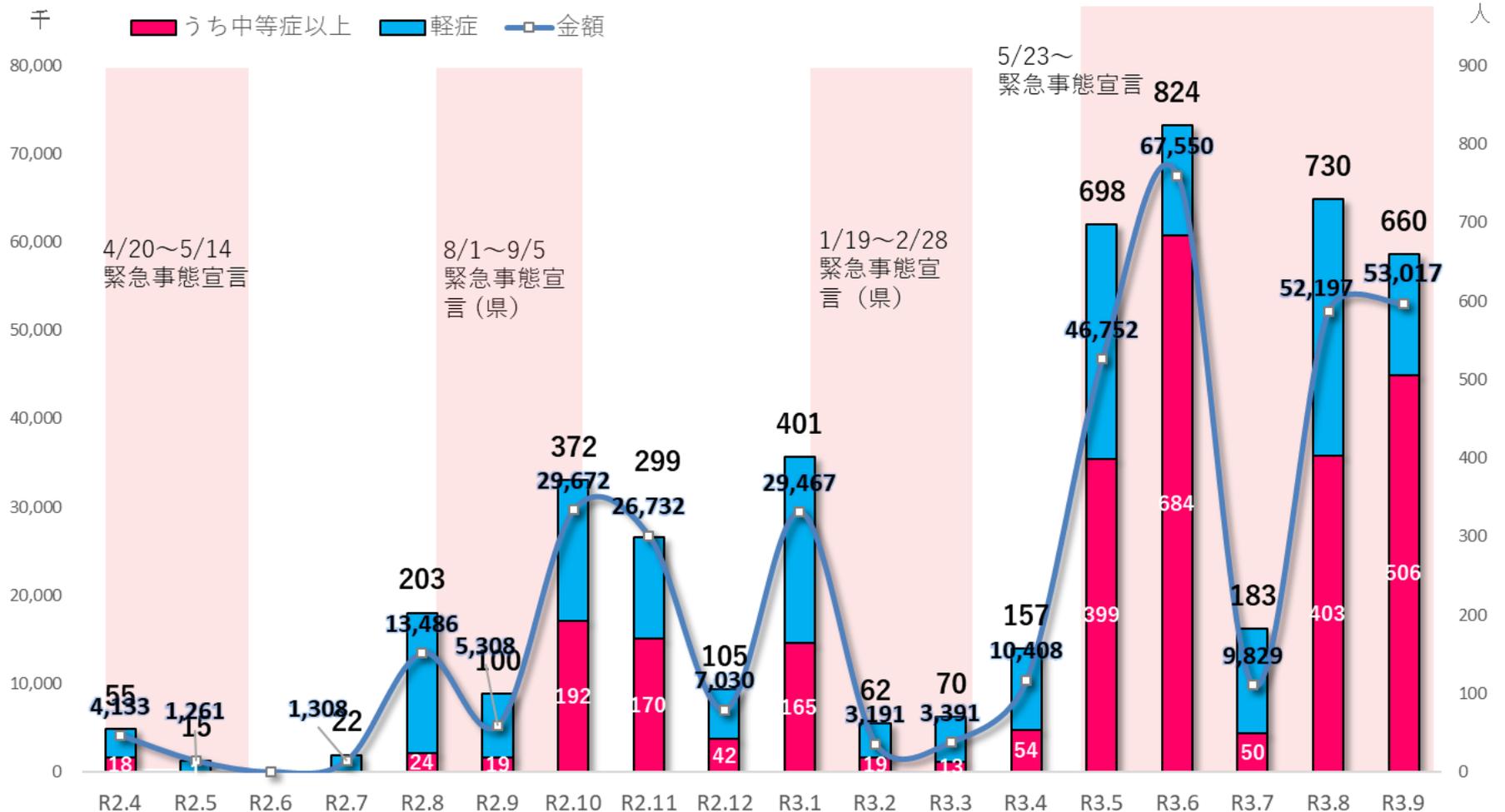
（内訳：石垣市48,123人、竹富町4,095人、与那国町2,033人）



新型コロナウイルス感染症患者（入院）

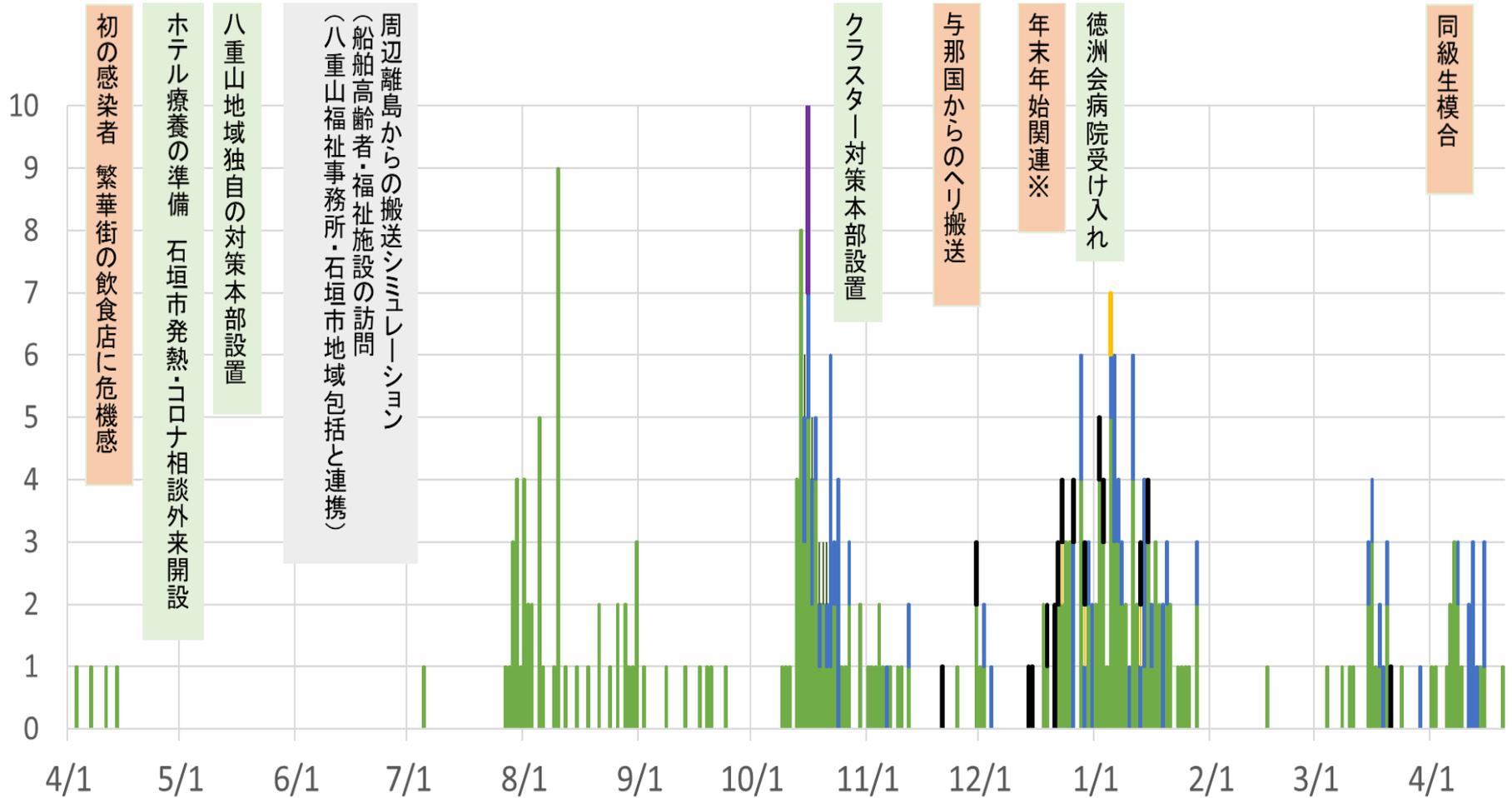
最大入院数：延べ患者数824人（うち中等症以上684人）

（参考：金額はレセプト請求額 単位：千円）



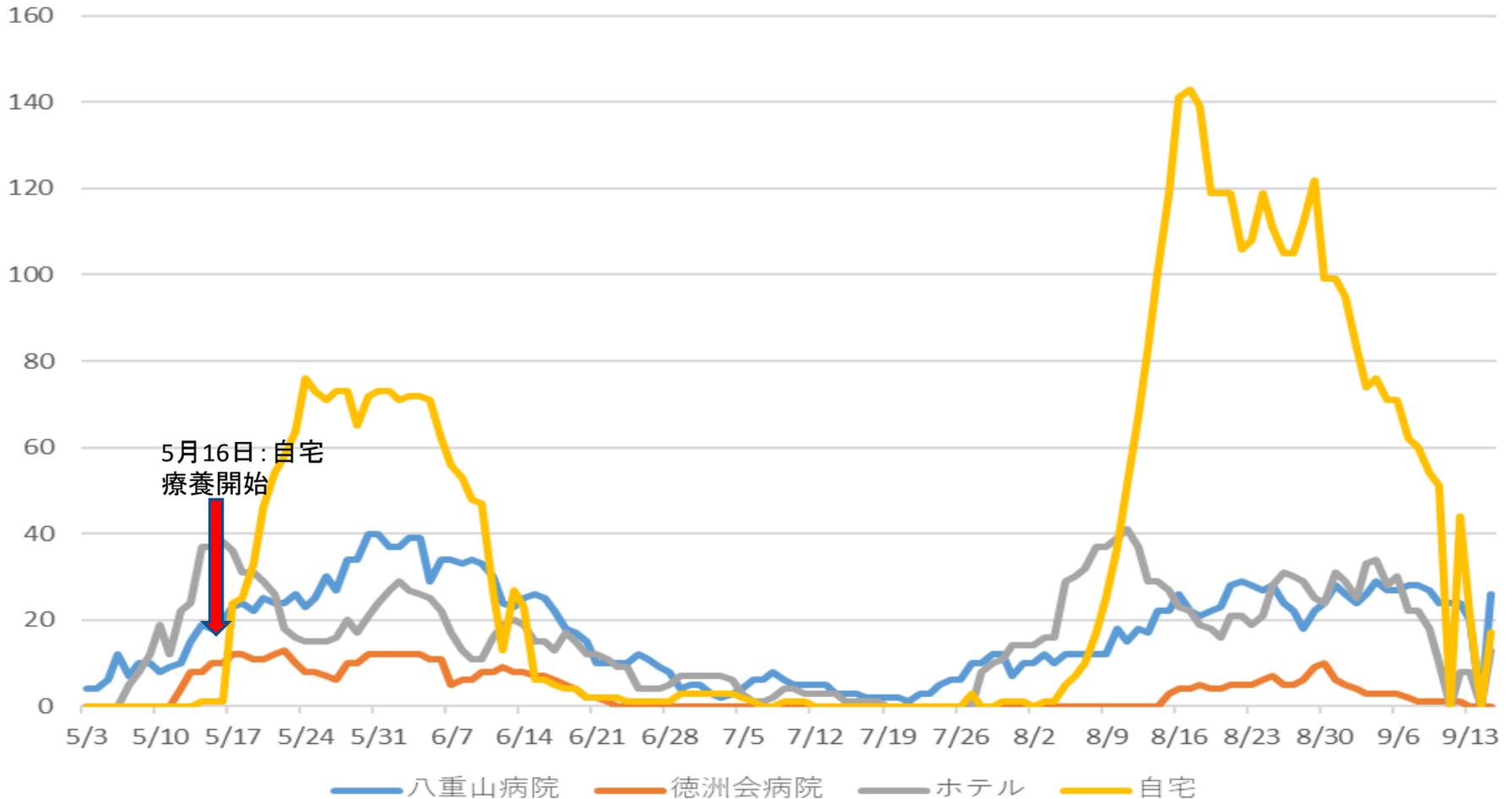
八重山地域のCOVID-19発生状況（R2年度）

・R2年4月：初の感染者発生



八重山地域のCOVID-19発生状況（R3年度）

・施設クラスターや正月の第3波を経験した後、さらに多数の陽性者が発生



病棟ゾーニング

- 患者搬送は感染症専用エレベーターで救急からHCU,病棟へ。
- 病棟は開放的すぎて、コロナ病床増床時に臨時の仕切りを設置し隔離。



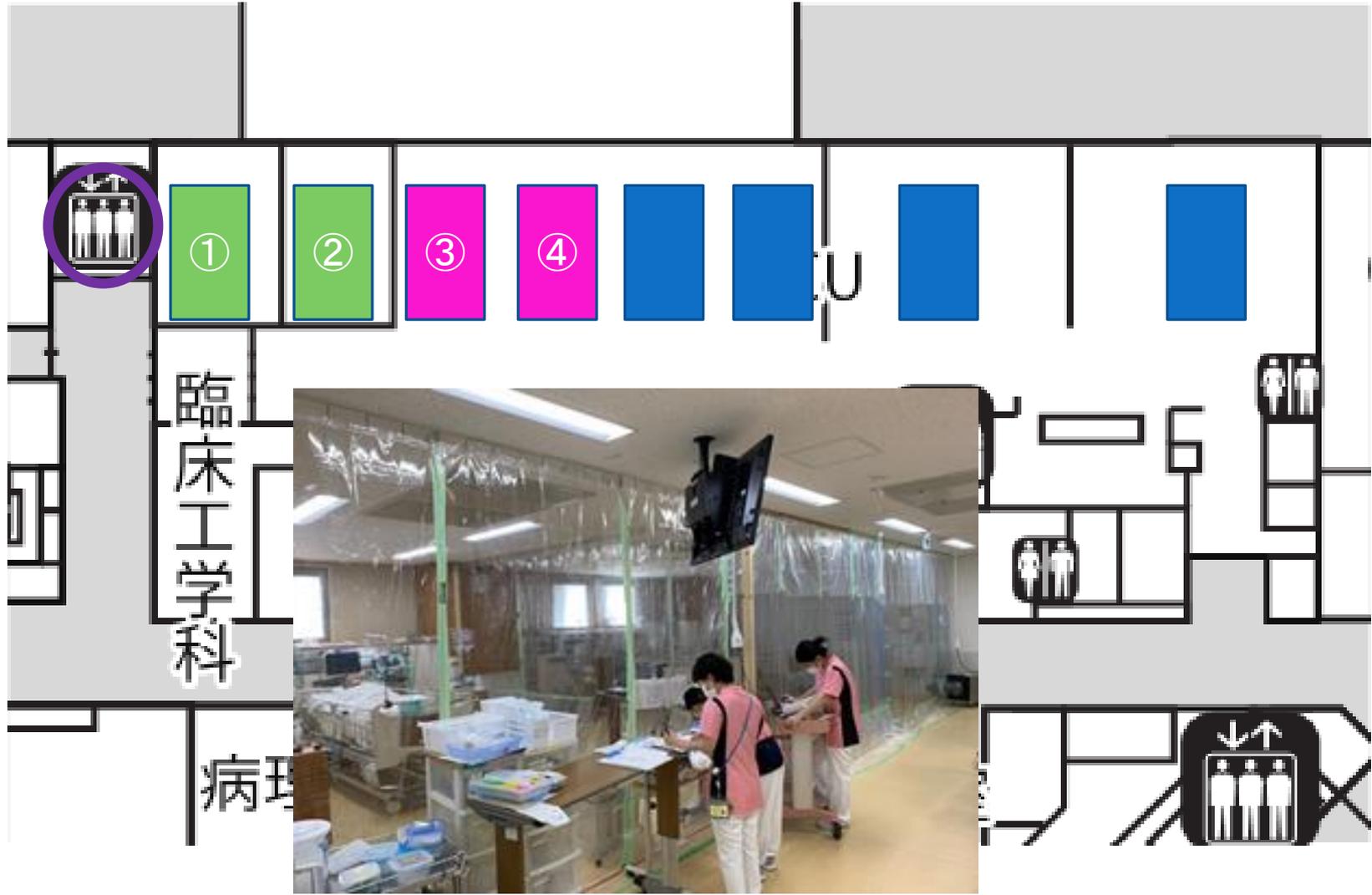
病床確保の状況

新型コロナウイルス感染症対応病床確保の推移

(単位：床)

		～R2.4月				R2.8月	R2.10月	R3.5.10	R3.5.21	R3.5.28	予定
HCU		2	2	2	2	2	2	4	4	4	4
4 階 西 病 棟	感染症	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	結核	0	4	6	6	6	6	6	6	6	6
	個室	0	0	0	4	4	4	4	4	4	4
	4床部屋	0	0	0	0	8	16	16	24	24	24
	小計	3	7	9	13	21	29	29	37	37	37
3 西	個室・4床部屋	—	—	—	—	—	—	—	6	13	
合計		5	9	11	15	23	31	33	41	47	54

病床確保の状況 重症：最大HCU4床



病床確保の状況 軽症・中等症（最大43床）



病床確保の状況

3階西病棟



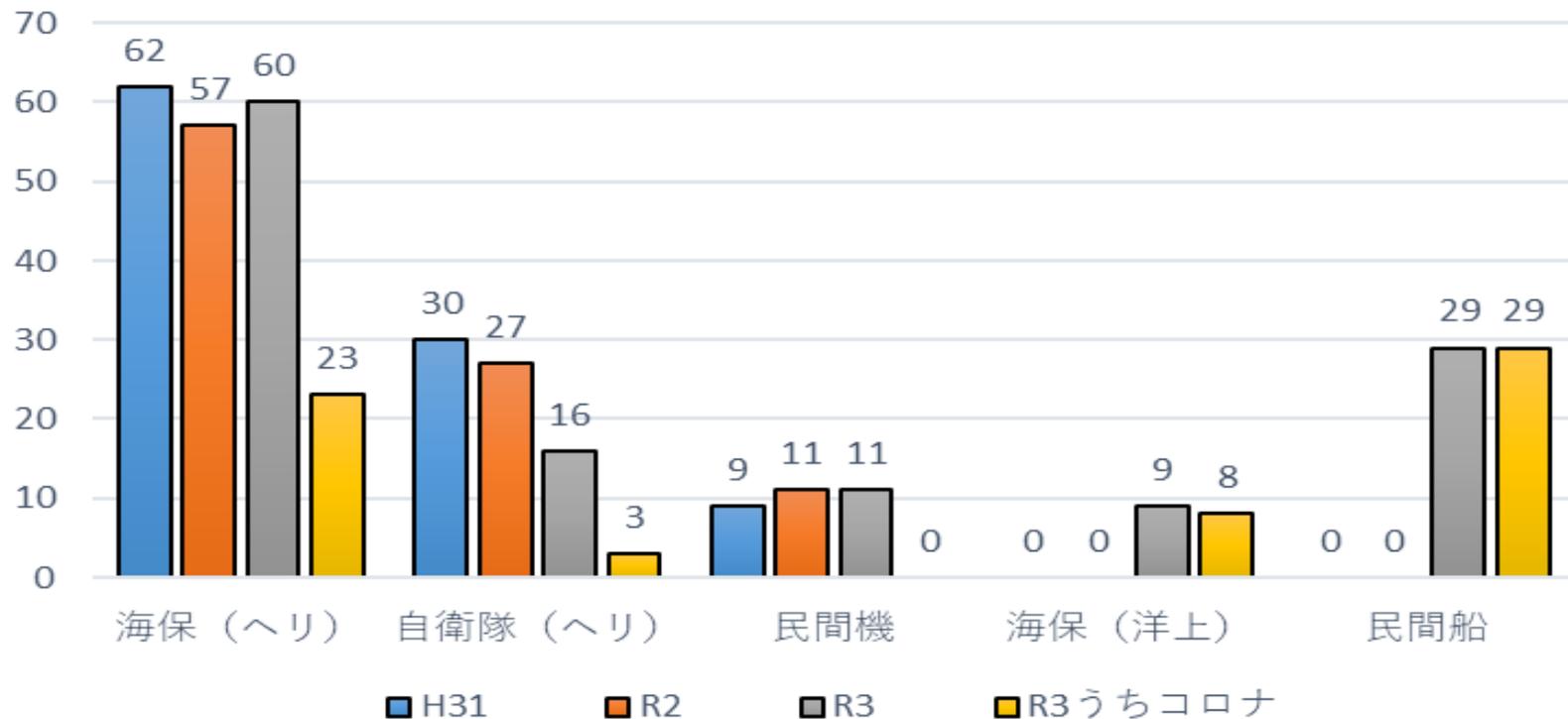
周辺離島からの搬送シミュレーション



急患及びコロナ陽性患者搬送

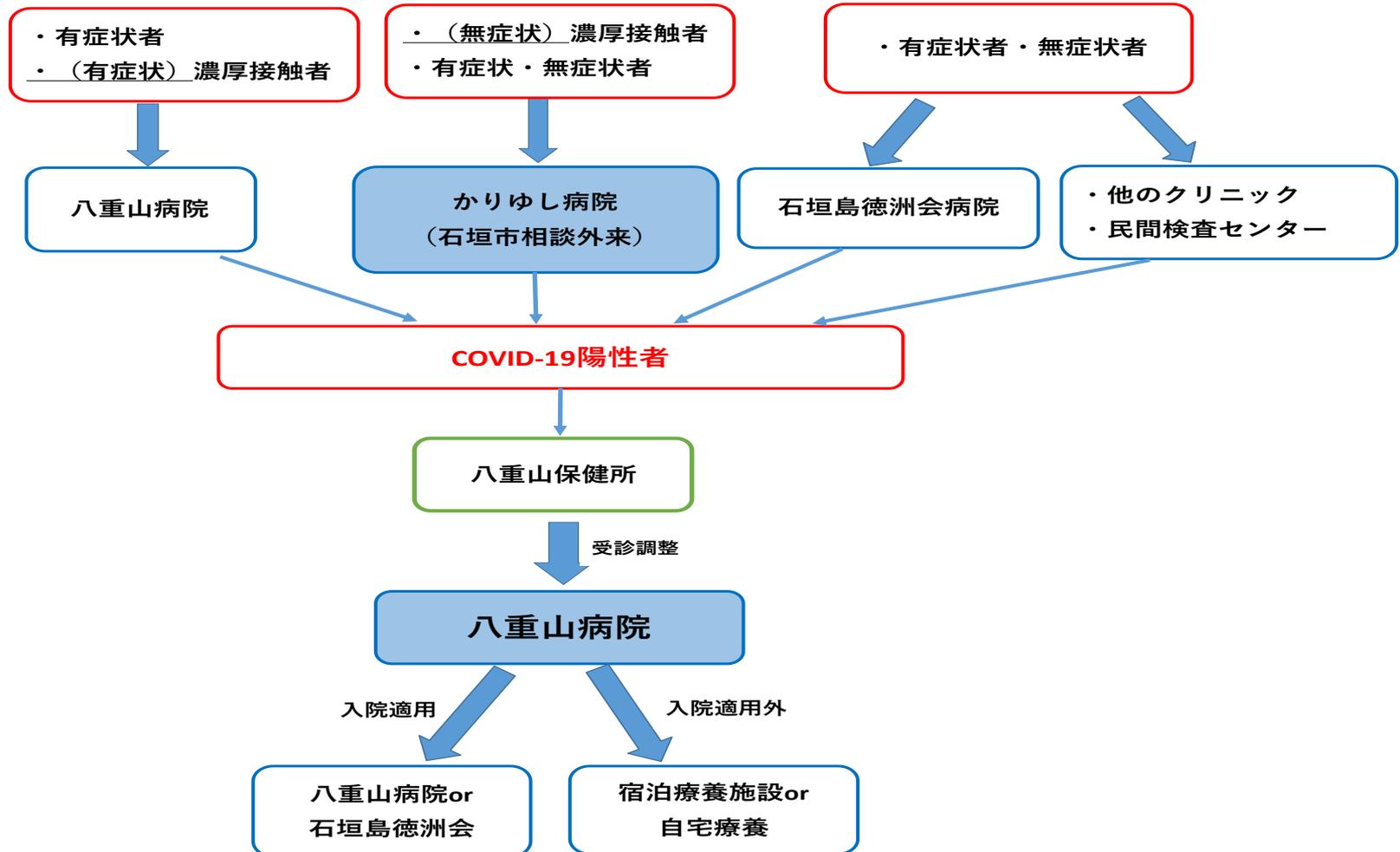
- ・周辺離島で急患が発生した場合は、海上保安庁及び自衛隊の協力の下、当院に患者を搬送している。
- ・コロナ陽性者（感染症患者）の搬送をシミュレーションを行っていたが、R3年度は多くの陽性者を当院へ搬送した。

患者搬送（転院含む）



地域との連携

八重山管内における新型コロナ対応体制



陽性判明後の対応



COVID-19 陽性確定

・原則全ての陽性者は八重山病院を受診し判断を行っている。

入院適応か？

YES

入院加療

✓ 保健所からFAXされる受診一覧に発症日、入院の可否を記入し、入院外の方は「コロナ患者情報シート」を作成し、保健所に情報提供する。

NO

宿泊療養適応か？

YES

宿泊療養

・パルスオキシメーターの貸出しを病院で行った。
・健康観察は保健所等で行うが、悪化する可能性がある患者に対しては病院でも健康観察を行い、フォローした。

NO

自宅療養

健康観察実施

受診必要か？

県コロナ本部・八重山保健所・八重山病院にて実施

NO

自宅療養

健康観察継続

✓ 就業制限解除まで健康観察継続
✓ 発症～10日間経過かつ72時間

八重山病院にて実施

YES

(日中) 県コロまたは保健所から八重山HP本部へ受診調整依頼
(夜間) 患者本人から救急へ電話連絡

八重山病院が実施

八重山保健所が実施

院内感染対策

- 昨年度の前半は、職員に対し島外に出る場合は、「**島外渡航申請**」をださせ、許可制にすることで行動制限を行っていた。その後は、「**島外渡航届**」を提出してもらい、**各セクション長が職員の行動を把握し、体調不良時の対応に備えている。**
- ICT及びICNによる院内執務室及び休憩室の利用指導や随所にアルコールを設置、感染状況に応じ、**入院患者への面会を制限（又は完全禁止）を実施し、入院患者の荷物の受け取りを行い家族等の病棟への出入りを制限（又は禁止）した。**
- **コロナワクチンの接種については、職員にアンケート調査を実施し、疑問に答えるとともに、何度も説明会を行った。**院内の接種率は97%に達している。
- 有症状者及び濃厚接触者となった場合は、PCR検査の実施及び陰性でも自宅待機をお願いしている。マンパワー不足ではあるが、院内感染対策として自宅待機させている。

施設・学校へ感染対策啓蒙活動

(八重山福祉事務所・石垣市地域包括支援センター・
竹富町健康づくり課/防災危機管理課・与那国町健康長寿課他)



<これまでの対応>

○かりゆし病院がPCR検査センターの役割、八重山病院及び石垣島徳洲会病院は入院・治療を行う病院として役割分担を行った。

○コロナ患者が増えた場合でも、救急対応は維持しなければならない。そのため、医師及び看護師を確保するため、診療制限を行った。

① 予定検査及び手術を延期 ② 外来は電話診療に切り替え ③ 1病棟閉鎖

<課題>

○医師及び看護師は慢性的に不足しているため、人員に余裕はなく診療制限を行いながら、外部から医師及び看護師の応援を頂いた。離島では、コロナ対応に特化することはできず、周産期及び救急対応等必要な医療体制を維持するためには人員の確保が必要である。

○周辺離島でコロナ陽性者が出た場合の搬送は大変難しく、第5波の際は、海上保安庁及び自衛隊の協力を頂きながら、さらに民間船をチャーターして陽性患者の搬送を行った。島に1名しか医師が居ないため、島内で陽性者を治療することは難しく、感染症患者の搬送手段を担保する必要がある。

<今後の対応>

○初期対応（早期発見・早期介入）が重要であり、関係機関と日頃からコミュニケーション・情報共有を行う。

○限られた医療資源を有効に活用するため、地域で病床の効率的な運用を検討する。

-軽症者は積極的にホテル療養

-八重山病院の病床は中等症、重症、ハイリスク軽症に絞る

-治療が終了した患者は早めに退院、転院、施設へ戻す体制づくり